

《現地研究会アンケート結果》

昨年に引き続き現地研究会のアンケートを実施したので、その集計結果を報告する。回答者は、会員56名、非会員19名の計76名であった。初日の参加者は150名近くいたと思われるが、未登録または途中で抜けた者もいたため回収率は50～60%程度であった。回答者のうち会員の割合が74%であった。今回は参加者を積極的（強制的？）に会員に勧誘したこともあり、昨年（66%）に比べかなり会員の割合が多くなった。なお学生の回答者は3名であった。

1. 回答者の年齢層

回答者の年齢分布について、昨年と今年を比較して図1に示した。昨年は50歳代が最も多かったのに対して、今年は40歳代が最も多く、若返り現象がみられた。これは、今年のテーマ「先端技術……」が若い年齢層に魅力があったためではないかと思われる。中堅どころである40歳代の関係者が多く参加したことは、今回の現地検討会が盛り上がったことを物語っている。

2. 回答者の職業

回答者の職業について、昨年と今年を比較して図1に示した。昨年は根釧農試を筆頭に試験場の関係者が多く参加したが、今年は民間企業の参加者の多いのが特徴であった。今年参加人数の多かった団体から順に農業開発公社18名、帯畜大14名、北大9名、酪農大8名と続く。また道外からは畜試、生研機構、北里大、全酪連などの参加もあった。しかし、農業改良普及員が1名も参加しておらず、今後普及員および農協職員に対する一層の働きかけが望まれるところである。

3. 参加の動機について

参加の動機を項目毎に（0：無し、1：弱い、2：普通、3：強い、5：大変強い）という5

段階で点数づけをしてもらった結果を集計して図3に示した。今回は搾乳ロボットに最も大きな関心が寄せられていた。次いでコンピュータ管理、情報収集の順であった。情報収集の項目が昨年に比べ多かったが、これは民間企業の参加が酪農の先端技術に大きな関心を寄せているためだと思われる。

4. 興味深かった視察場所

視察場所毎に興味深かった程度を前記と同様な5段階で点数づけしてもらった結果を集計して図4に示した。昨年は放牧酪農を実施している牧場に興味が集中したが、今年はいずれの視察場所も興味の対象として参加者に受け入れられた。中でも、搾乳ロボットのある成瀬牧場と畜大農場は多くの興味を引いた。ただし、今回は案内者が普及員でなかったこともあり、経営内容や作業機械設備、糞尿処理など一般的に説明される部分が不足していたのとの指摘もあった。

5. 参加者

昨年の参加者は1万円であったが、今年は5割増しの1万5千円とした。そのことに対する感想を聞いたところ、参加費は1万5千円までとの意見が58%と最も多く、次いで2万円までが20%であった。1万円までにするべきだとの意見も8%程度あったが、実際にかかる費用は仕方がないとの意見が大勢を占めた。これらより、内容が有意義なものであれば、参加費の1万5千円は高すぎる設定ではなかったと判断される。

6. 今後の要望

今後の現地検討会の内容および地域に関する要望のアンケート結果は次のように要約される。内容として最も要望の高かったのは、昨年同様

ふん尿処理であり、関心は年々高まる一方であった。この問題に対処する決定打はなかなか聞かれないが、早い時期に本研究会のテーマとして取りあげるべきであることだけは確かである。2番目は、放牧をテーマとする現地検討会の要望が多かった。放牧には、ふん尿処理問題が軽減される、低コスト化につながる、マイペース酪農に通じるなどという複合的な面を含んでおり、再びテーマとして取り上げるべき有力な候補である。

次に視察を希望する地域を聞いたところ、根釧地方と天北地方の希望が最も多く出された。十勝では2年連続して実施したので、次は別の地域を希望したと考えられる。去年は、胆振等の道南を希望する人が比較的多かったが、今年はその数が減少した。

今後、本研究会で企画すべき現地検討会の方向性を以上から総合的に判断すると、根釧または天北地方を中心とした放牧とふん尿処理問題をからめたテーマが浮かび上がる。これらの点を事務局で充分検討して来年度の現地研究会を企画するつもりである。

以下に現地研究会の内容と地域に対する要望の集計結果を示す。

内容：ふん尿処理14、放牧6、先端技術3、省力化システム2、地域複合化2、自給飼料生産型酪農2、コントラクター2、パソコン利用の実例2、畜舎低コスト化1、ゆとり酪農1

地域：根釧（道東）7、天北（道北）7、十勝3、道南2、道央1、都市近郊1、オホーツク1

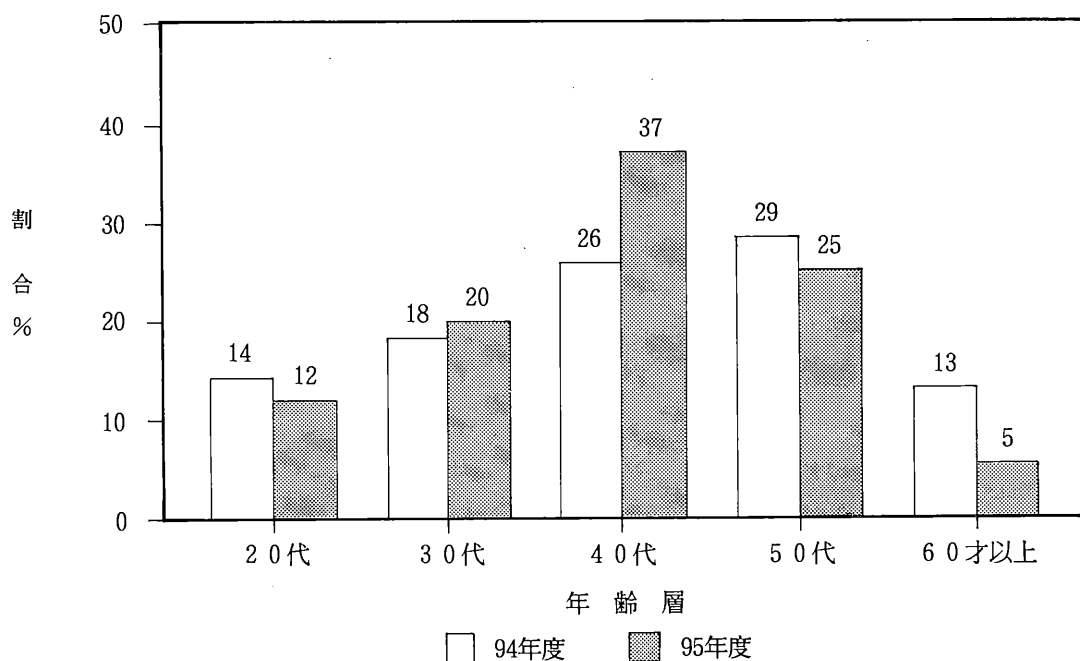


図1. アンケート回答者の年齢分布

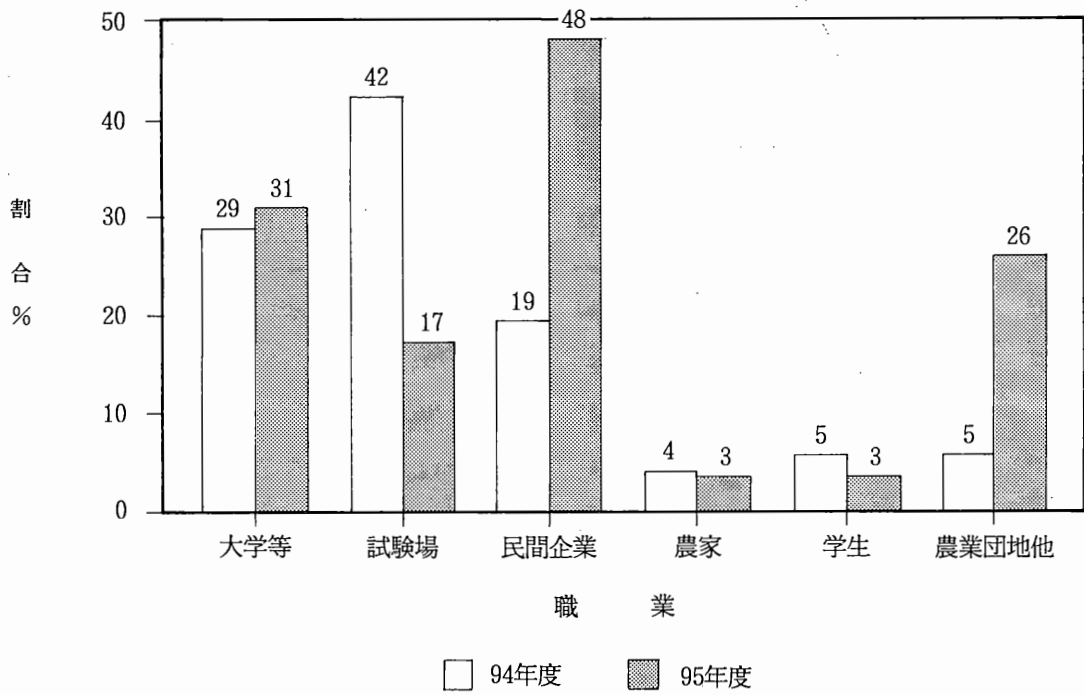


図2. アンケート回答者の職業

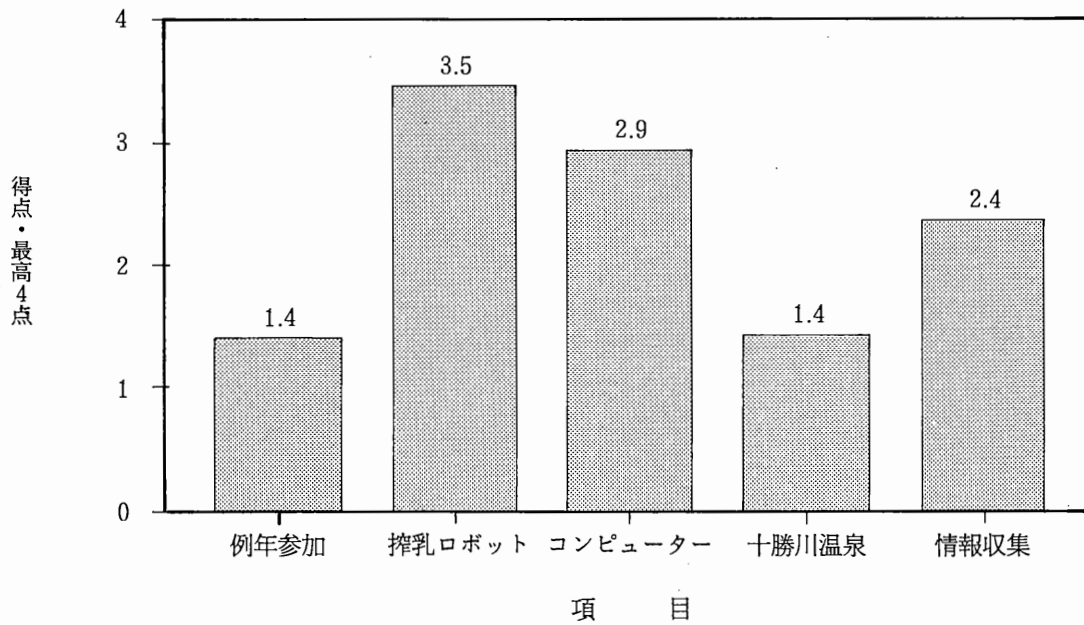


図3. 参加動機の強さ

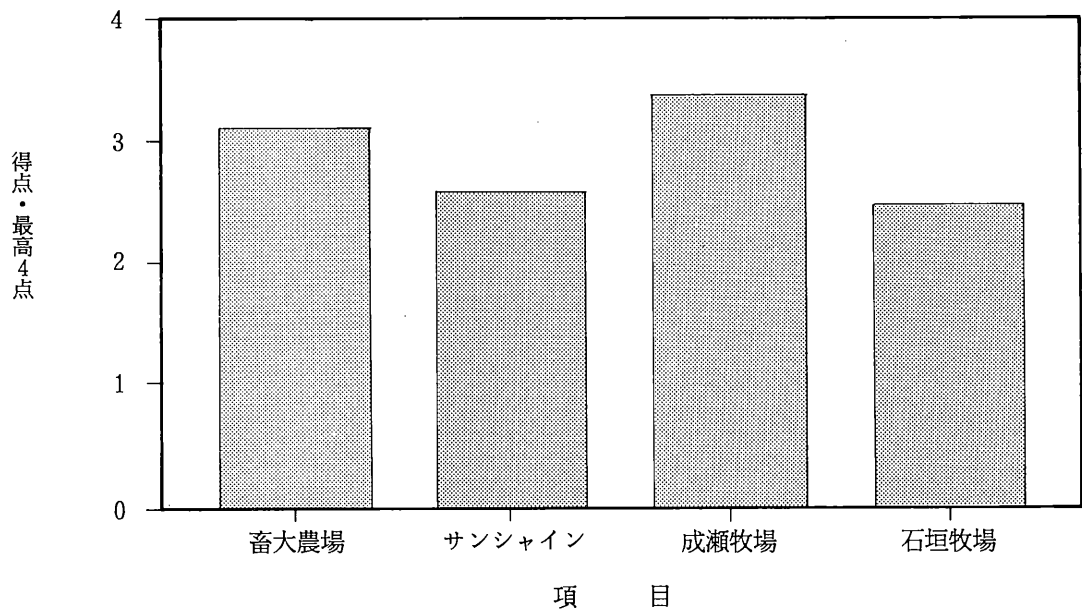


図4. 視察場所に対する興味の度合い